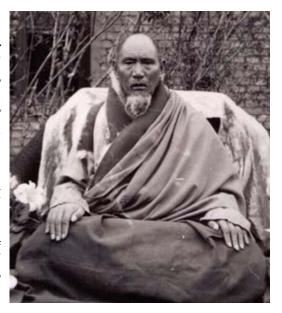
逆境について

牢屋の中にいたとき、ケンポ・だとき、ケンは風に教えてていたというでき、かったのでははない。「逆境証しての進みは修行の進みり、ならのが、はない」。い苦しないはない」。い苦しないはない」。いちにものが、ないないがいがいないであるが、からでいるのが、はいいでもののかがわかるに、はないでもののかがわかるのかがある。



ケンポ・ムンセルはまたこんな風におっしゃったものじゃ。「逆境の困難はお前さんの隠された欠点を暴露する」。もし、そのようなときにも覚性を保って動揺せず、感情の力に引きずり回されないでおれるなら、修行がかなりできてきておるということじゃな。

もし一ヶ月の間、懸命に努力精進して正念覚性(mindful awareness)を保つ修行をして、微細な考えのかけらにもすべて気がついて、どういうことがあっても心がふらふらと外に出ていって妄想の中に入っていかないようにするなら、一ヶ月という短い期間であっても、修行の体験は大きく進むじゃろう。強烈な煩悩も大きな混乱を引き起こすことはなくなるのじゃが、それは心が幻の戯れを観察する体験を経たからじゃ。実際上、必要な対治の方法はただひとつで、それは正念覚性なのじゃ。ただこの一つの方法に頼るだけで、内外の一切の逆縁や障害をたちまち転化(transform)させることができるのじゃよ。

(『噶千語録』, p.42)